

平成29年度

香川県パソコン要約筆記者養成講座 受講者募集!

「言葉は生命なり」と言われています。

その言葉を聞くことのできない“耳の不自由な人”が、たくさんいます。

たまたま聞こえる人が、「話」を「文字」に変えて伝えることで、
たまたま聞こえなくなった人が、元気に暮らすことができます。

「話」を「文字」で伝える『要約筆記』をあなたもやってみませんか?

「香川県登録要約筆記者」として一緒に活動しましょう。



◆ 日 時 平成29年6月11日(日)～平成30年3月11日(日) 10:00～16:00

日 程	講座内容
6月11日(日)	聴覚障害の基礎知識
6月25日(日)	要約筆記とは?
7月 9日(日)	日本語の基礎知識
7月23日(日)	要約筆記の目的
8月20日(日)	話し言葉の要約
9月24日(日)	聴覚障害者運動と歴史
10月15日(日)	社会福祉と基本的人権

日 程	講座内容
10月29日(日)	対人援助・伝達の学習
11月12日(日)	ノートテイクとは?
11月26日(日)	要約筆記者の役割と派遣制度
12月10日(日)	現場実習(難聴者と交流)
1月14日(日)	研修会と現場実習
2月18日(日)	研修会と現場実習
3月11日(日)	研修会と現場実習

*上記以外に現場実習も数回あります。日時・内容の変更がある場合もあります。

- ◆ 会 場 香川県聴覚障害者福祉センター(高松市太田上町405-1)
- ◆ 参加費 無料 先着20名まで(なるべく早くお申し込みください。)
- ◆ ノートパソコンをご持参ください。



耳代わりになってくれる人
この指とまれ!

<申し込み・問い合わせ先>

非営利活動法人

香川県要約筆記サークルゆうあい

TEL 090-6518-5126(陰山)

Email:mkaori@bea.hi-ho.ne.jp

主 催 香川県

実施者 特定非営利活動法人

香川県要約筆記サークルゆうあい

共 催 香川県中途失聴・難聴者協会

「要約筆記」活動に関するインタビュー

Q 1 活動のきっかけは？

〈団体〉

1987年、「私たちも、ここにいます！」と、手話を知らない聞こえない人たちが集い、「香川県中途失聴・難聴者協会」を結成したが、コミュニケーション手段がなかった。「話」を「文字」に変えて伝えるコミュニケーションの仲介者が必要となり・・・、「話と心の架け橋になろう！」と「香川県要約筆記サークルゆうあい」が誕生。

〈個人〉

- ・女房が難聴だったので、なんとなく・・・。
- ・「要約筆記」って何だろうと思ったから・・・。
- ・阪神大震災でボランティア支援を受けたので、ボランティアのお返しをしようと考えて・・・。
- ・何か、人の役に立ちたい。

Q 2 NPO法人取得はいつか？

1999（平成11）年4月8日 結成13年目に！

Q 3 NPO法人のきっかけは？

ボランティアの市民権を得たかったから。

県庁・市役所には、障害者の窓口は存在したが、ボランティアの窓口はなかった。

ボランティアは、「ヒマで好きな人がやる」「宇宙人のような人がやる」などといわれていた。

Q 4 メインの活動は？

難聴者の情報保障を受け持ち、難聴者の社会参加をサポートする。

難聴者の情報保障手段である「要約筆記」の普及・活動者の養成・派遣活動。

誰もが住みやすい社会づくりの一助になれば・・・。

Q 5 活動による成果は？

「要約筆記」の存在は、難聴者のコミュニケーション手段だけでなく、心の安定剤でもあった。「要約筆記」なくして、今日の難聴者の社会参加はなかったといっても過言ではない。（もちろん、パソコン・携帯電話などの機器により一段と活発になったのも一要因ではあるが。）

Q 6 よかったことは？

「要約筆記」とは、言葉のボランティアである。耳の不自由な人に接し活動することで、日常の言葉の大切さを知らされたこと。「言葉は生命なり」とあらためて実感する。

Q 7 今後の抱負は？

食べ物”身体”をつくるが、言葉は“心”を豊かにします。

人は、言葉で喜び・泣き・怒り・悲しみます。

香川県民が「難聴」（聞こえないこと）を理解し、言葉の大切さを知り、

香川県民が“総要約筆記者”になってくれることです。

Q 8 どのような活動をしたいか？

難聴者が安心して社会参加できるような“字幕社会”をつくりたい。

病院・役所をはじめ生活の場でも、文字によるサポートがある社会に。

講演会・イベント・演劇などにも字幕がつき、いつでも参加できるように。

「要約筆記」を知ってください。参加してください。依頼してください。

何よりも、耳の不自由な人たちのことを理解してください。